

NJ 素流協 News

平成23年5月31日
第77号

平成23年5月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>



理事長挨拶

NJ素流協は設立以来、組合員各位の努力と協力のもと、事業が質量ともに伸張拡大を続けてきたが、今後一年間については社会経済とりわけ東北地域の森林・林業をめぐる動向が全く予測不能の状態である。大震災が森林・林業に及ぼすダメージはきわめて大きく、

まさにこのような姿勢で今年度の事業を展開して参りたい。新しい事業も模索しており、その実現の見通しが立った折には会員各位

石川勝也副理事長の開会の辞に
全員起立し、黙祷を捧げた。
開会に先立ち、この度の東日本大震災で亡くなった方々のために
の出席により開催された。
任状出席、書面出席合わせて84名
流協第8回通常総会が、組合員総
数104名のうち、本人出席、委
任状出席、書面出席合わせて84名
の出席により開催された。
会館(盛岡市)において、NJ素
流協第8回通常総会が、組合員総
数104名のうち、本人出席、委
任状出席、書面出席合わせて84名
の出席により開催された。

「3月11日の東日本大震災で亡くなった多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、行方不明の方々の消息が一日も早く明らかになることを願っている。この大震災では津波が被害を大きくしたが、設立当初から素流協に対し多大なご理解とご協力を頂いてきたホクヨード(株)ならびに関連会社が大変な被害を受けた。一日も早い復興を心から祈念している。」

「東日本大震災で物心両面で大きな被害を被ったわれわれ組合員は、森林・林業を復興・再生させ真の国産材時代を樹立するために、今年度を復興改革元年と捉え、森林・林業が大きな転機を迎えたことを真に認識し、この時をチャンスに変え自らが立つという意識と気概を持つとともに、時代の変化にも柔軟に対応しながら積極的かつ合理的な事業展開を図っていくこととする。」

NJ素流協 第8回通常総会開催される

続き、下山裕司理事長が次の通り挨拶した。

そのために今年度の素流協の事業計画と取扱量は、昨年の実績が26万7000㎡であったのに対し、今年度は22万㎡とかなり控えめなものとなった。この量でさえ、計画案作成の際には「本当に達成できるのか」という思いがあった。

一方、平成23年度事業計画基本方針には「復興改革元年」という言葉を用い、次のように述べた。

に協力を仰ぎたい。大変困難な厳しい状況が続くと思うが、そのような環境の中でも前向きにお互い手を携えて進んで参りたい。皆さんのご理解、ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。」

続いて、ホクヨープライウッド(株)常務取締役 福田忠一氏が登壇、震災後N J素流協組合員が支援に駆けつけたことに対するお礼を述べ、次のように現状を報告した。

「ホクヨープライは敷地2万坪のうち、海側の約1万5千坪が2mの津波を受け、敷地全体が海水の浸漬被害に遭った。機械本体は壊れなかったが、制御盤類やモーター類等機器が使用不能になった。

2つの単板工場のうち北星(株)ロータリーレーズ1台が完全に破壊され、残りは修理する方向だが、その他のほとんどの機械を新規にしなければならぬ。大船渡の北日本プライでは建物が40〜50mに渡って破壊され、機械が修理できるかどうかも現在全く不明の状態である。この大きな被害の中で一

番悔しかったのが、北日本プライの小野社長、北星の畠山工場長という人命を亡くしたことで、非常に悔しい思いである。

このような中非常にありがたかったのが、復興に向けての皆さんからのご支援だった。下山理事長はじめ国、県等いろいろな方々が携わって頂いて復興関係の法律が3月にでき、それに則った復興計画の第一段階として、7月に1台のロータリーレーズを確保し、年間10万㎡生産をスタートさせようとしている。

復興計画を立てるに当たってはもとの場所で事業を再開することへの悩みと不安、機械の修理に非常に時間が掛かることなど、なかなか工程表が作れない事情もあった。そのような中でも7月に1台、秋までには2台目を確保、20万㎡の生産体制を作ることが可能ではないかと思っている。非常に厳しい状況の中でも計画が少しずつ前進し始めたので、今後とも温かいご支援を頂きたいと思っている。

ありがとうございました。」

時折声をつまらせつつ工場復興への決意を語った福田常務に対し、出席者一同が拍手を贈った。

続いて工場の被害復旧支援に協力した組合員27名の名が読み上げられ、下山理事長より感謝状が贈られた。贈呈者は5ページ別表の通り。

また全国素材生産業協同組合連合会より永年素材の安定供給と生産技術の向上の功績がみとめられ表彰された当組合前理事 泉藤吾氏と、現理事 横澤孝一氏に対して表彰状の伝達が行われた。

審議では平成22年度事業報告及び決算、平成23年度事業計画案ほか各議案について事務局から説明が行われ、全て原案通り承認された。主な議案の議決内容は次の通り。

22年度共同販売事業の素材取扱数量実績は26万7640㎡で、対計画比107%、対前年比120%であった。うち組合員生産による合板用素材が21万8388㎡、シ

ステム販売素材が1万3072㎡、

製材・集成材用、土用素材他が3万6180㎡であった。また新たに組み込んだ素材利用拡大実証事業の成果として発電用燃料材等のバイオマス材を169・3ト取り扱った。その他事業としては、

組合員対象の経営技術研修会や国庫補助事業の一環である路網作設オペレーター養成研修、再造林未済地の解消を目的とするフォレスト再生モデル実証事業等を行った。

23年度共同販売事業の当初計画量は合板用とその他を合わせて22万㎡(対前年実績比82%)とし、工場の復興状況等の動向により中間段階で修正を加えるものとする。組合員対象の研修会等を引き続き行うほか、素材利用拡大実証事業、フォレスト再生モデル実証事業等を継続して実施する。

役員のうち岩手県森林組合連合会元代表理事会長 佐々木良一郎理事の辞任にともなう1名欠員の補充のため、同連合会専務理事 澤口良喜氏を新理事に選任した。

一葉

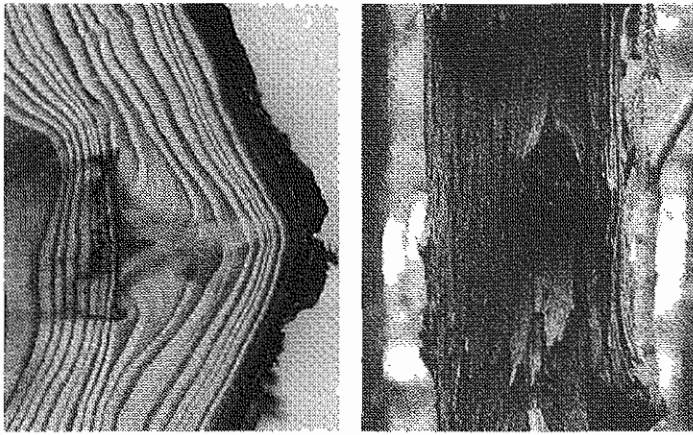
樹木の病害虫 (12)

隠れ傷 2

本誌74号では、スギカミキリによる隠れ傷を紹介した。外部から見えにくい幹内部の傷には他にもあり、そのいくつかをお知らせする。

① 小さい瘤、隆起

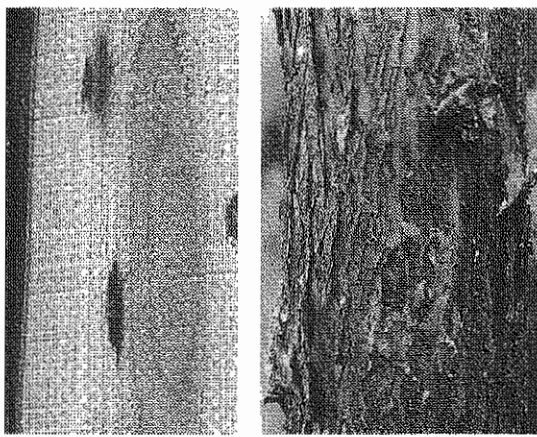
スギの幹に小さい隆起や瘤があるもので、ヤニや傷跡などが見えるものと見えないものがある。



多くはヒノキカワモグリガという蛾の幼虫の食害の跡である。

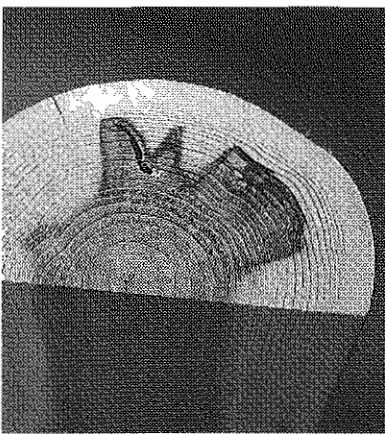
② 乾燥したヤニと短い裂け目

幹の表面に長さ1〜2 cm程度の乾燥したヤニがこびりついており、近くに縦の裂け目が見えることもある。スギカミキリの孵化幼虫が寄生に失敗した跡である。



③ 枯枝の基部に小さい穴

スギの枯枝あるいは自然落枝した枝の付け根付近に直径2 mm程度の丸い穴がある。あるいは枝の中に粉の詰まった食害の痕跡がある。



る。

スギノアカネトラカミキリによる被害（飛び腐れ）である。枯枝が巻き込まれてしまうと、外見からの見分けはできない。



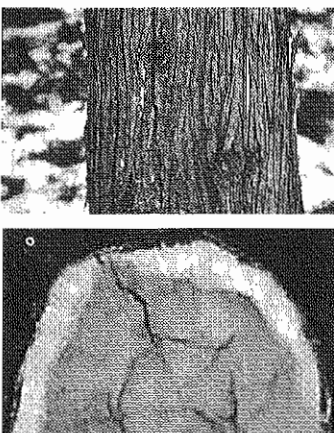
④ 樹皮に横筋

スギの幹上中部の樹皮に水平の盛り上がりがある。原因は不明だが、風あたりの強い場所に発生し、強風時にその部分で折れる。製材しても使い物にならない。



⑤ 幹に縦の裂け目

スギの樹皮に、長い裂け目がある。低温で幹が凍結した被害（凍裂）である。裂け目は幹の中心部に達し、年輪に沿う割れも入る。



トピックス

東日本大震災にかか るNJ素流協の取組み

1. 第一次補正予算「木材供給等緊急対策事業（流通経費支援）」への取組み指導

2. 出荷先工場への受入量の増大要請、新規出荷先の開拓・交渉

3. 大船渡市（北日本プライウッド）への被災処理支援継続中

4. 林業用機械・施設の被害状況の調査・とりまとめ（県へ報告）

作業道散策 14

卯の花 (ウツギ)

卯の花の匂う垣根に

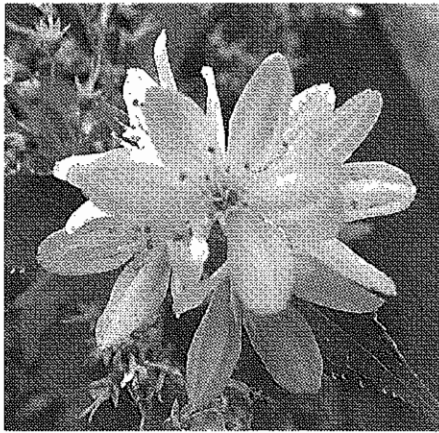
時鳥早も来鳴きて

忍音もらす夏は来ぬ

文部省唱歌「夏は来ぬ」で歌われている「卯の花」はウツギである。旧暦4月卯月(うづき)に咲くことからこのような名がつけられた。背の低い灌木で、岩手県にも天然分布し、6月に咲く。

万葉の時代から和歌に登場し、歌詞にあるように垣根あるいは庭木として植えられることが多い。ちなみに、「匂う垣根に」とあるが、この花に匂いは無い。

正式の和名ウツギは漢字で空木



と書き、これは軸の中心部が中空であることから来ている。

卯の花くだし、卯の花くたし、という言葉がある。どちらも「卯の花腐し」と書き、俳句では初夏の季語となっている。梅雨前に降る卯の花を腐らせるような長雨を指す。

地方によって「たうえばな」の別名があり、田植えの時期を知らせる花でもある。清楚な美しさから、活け花や茶花としても好まれる。また、材が硬くて丈夫なことから、木釘としても使われた。

一方、法事にまつわる使われ方もあり、「ほとけばな」、「しびとはさみ」、などの別名を持ち、屋敷近



くに植えるのを避ける風習もある。豆腐作りで生じる「おから」も

東日本大震災被害復旧支援

(丸太等収集・物資等)

感謝状贈呈

平成23年5月30日

㈱小笠原林業、明和フォレストテック(旬)、(旬)谷地林業、(旬)山一木材、高橋木材、(旬)松田林業、(旬)江刺屋林業、(旬)佐藤木材、平山林業、

(旬)三栄興業、山中林業、丸昭木材、佐藤造林、仲山林業、佐藤木材、(旬)伊藤木材、ふる里木材、二戸林業、(旬)小林三之助商店岩手工場、佐々木林業土木、(旬)大畑林業、袖林林業、丸鶯木材(旬)、青森県国有林材生産協同組合、丸富運輸(旬)、青森県森林整備事業協同組合、上北森林組合

「うのはな」と呼ばれるがこちらとの関連は定かではない。

冗談欄 やり残したことを取り返すには

あることを夢中でやっている時間がアツという間に過ぎ、色々のことがあると物凄く長く感じる。また、子供のころの1日と高齢の今の1日とは長さが随分と違うものだ実感している。

このことは意識として体験する事柄の量によっていると説明されている。すなわち、子供の時には常に初めての経験なので常に判断しなければならぬのに比べ、大人の時代は、歳をとるたびに無意識の処理が増え、意識しない時間が増えるためとされている。

1歳のときの1年は、10歳のときでは10年分に、20歳のときでは

20年分に、60歳のときでは60年分になるという。

若い時にやり残したことを歳を取ってからやろうとすると多くの時間が必要となる。

もし、60歳の時に20歳の時にやり残したことに気付いてやろうとすると、3倍の時間を必要とする。やり残したことが多くあると、更に多くの時間を必要とし、それができないときは悔いを残して死ななければならぬ。

大変なことである。悔いを残さないで死ぬ簡単な方法が一つだけある。

ボケることである。

平成23年5月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約870㎡減少、カラマツが約250㎡減少、アカマツが約280㎡減少し、全体では約1,420㎡減少している。昨年同月と比較すると、スギが約6,730㎡減少、カラマツが約7,280㎡減少、アカマツは約1,270㎡減少し、全体では約15,270㎡減少している。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は前月より約220㎡減少している。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約580㎡増加、昨年同月より約4,640㎡増加している。
今年度の年間計画量に対する1か月あたりの出荷量の割合（目標達成率）を16.7%とすると、今月の全体出荷実績は、計画数量を5.9ポイント下回る進捗状況となっている。

| 樹種 | 長級 (m) | 当 月 出 荷 量 | | | 今 年 度 累 計 | | | |
|-----------------------|--------|----------------|-----------------|------------------|------------------|----------|------------------|------------------|
| | | 合板用 | その他 | 計 | 合板用 | 樹種別割合(%) | その他 | 計 |
| スギ | 2.0 | 2,213 | | | 5,191 | | | |
| | 4.0 | 292 | | | 689 | | | |
| | 計 | (50) 2,505 | (79) 4,255 | (129) 6,761 | (227) 5,880 | 54.8 | (79) 7,722 | (306) 13,602 |
| カラマツ | 2.0 | 1,827 | | | 4,012 | | | |
| | 4.0 | 256 | | | 536 | | | |
| | 計 | (0) 2,084 | (149) 1,747 | (149) 3,831 | (95) 4,547 | 42.4 | (149) 2,997 | (244) 7,544 |
| アカマツ | 2.0 | | | | 270 | | | |
| | 4.0 | | | | 10 | | | |
| | 計 | | 847 | 847 | 281 | 2.6 | 2,112 | 2,393 |
| その他針 | | | | | 21 | 0.2 | 58 | 80 |
| 広葉樹 | | | 22 | 22 | 0 | 0.0 | 140 | 140 |
| 合計 | | (50) 4,589 | (228) 6,871 | (278) 11,460 | (322) 10,730 | 100.0 | (228) 13,029 | (550) 23,759 |
| 目標達成率 (%) | | | | | | | | 10.8 |
| 計 画 量 | | | | | | | | 220,000 |
| バイオマス用針葉樹チップ材 (単位:トン) | | | | 0 | | | | 0 |

() はシステム販売取扱量(内数)

落穂拾い

NJ素流協の組合員の大半は、経営規模でいうと零細ないしは小企業であり、中には会社組織でない個人経営形態のものもある。このような業体が岩手県や青森県、秋田県等北東北地域における素材生産活動の大部分を担っている。ただ近年、これらの素材生産事業体は高性能林業機械を積極的に導入するとともに生産性も逐次向上してきている。また、それらの事業体の後継者として、すなわち二代目、三代目という若手が素材生産事業に参入している例が結構見られるようになった。このことは、高性能林業機械等の導入による機械化の進展と無縁ではないであろう。したがって、北東北地域に限定して言えば、素材生産活動の拡大に対応する潜在能力は十分にあると考えている。一般的には、林業従事者の高齢化・減少化の傾向が長期間続き、林業生産活動の担い手不足の解決が喫緊の課題と指摘されてきたが、問題はいろいろと内在するものの素材生産事業の担い手について私は余り心配していないのである。そう考える最大の理由は、わが国の素材生産事業者は林業界において唯一自力で生きてきた業体で、その「したたかさ」は他の迫随を許さないものを持っていることである。わが国林業の長期にわたる低迷の中にあつて彼らは、誰の助けも借りずに素材生産活動を生業として、黙々と携わってきた。素材生産者に対する林業機械等の導入や経営強化のための補助金は無きに等しかった。事業協同組合や事業体が集まって組織する団体に対するものが若干あつ

ただで、それも補助金を活用して導入した機械装置について共同使用とか期間別に使い分ける方式が条件として付され、現場にそぐわない全く使い勝手の悪いものであった。したがって、わが国の素材生産事業者は事業運営経費や機械整備費の調達を、自らの才覚と努力に拠ってきたのである。そういった実態の中で、独力で生き抜くための「したたかさ」を培い、それを支えにして地を這つても生き続けてきたのである。このような体験と体質を持った素材生産業者が、わが国林業の再生のための礎となり、最大の担い手となると考えるのである。これからの林業生産活動は素材生産活動だけではなく、これに続く作業として伐採跡地の森林造成までを連続して行うことが必然であり、かつそのような林業生産活動の連続性のシステム化が強く求められているのである。幸いにも、北東北地域の森林資源はその蓄積を増大させており、今後森林資源の計画的な収穫に心掛けるならば、年々の収穫量の増加と継続性には心配しなくともよい状態にきている。今後の課題は、真の国産材時代を迎えるための担い手をどこに定め、その担い手と目される組織や業体の育成強化をいかに進めていくかであろう。その担い手となる一番手は、「強靱なしたたかさ」を持ち、自らの力で生きてきた素材生産業者である。国がこれまで長年にわたつてわが国林業の担い手として期待し、その育成に力を入れてきた組織等については、その現状とこれまでの結果を真剣に検証してみる必要がある。そのことがわが国林業の再生に踏み出すための前提になる。